



弘前大学医学部 附属病院の紹介

弘前大学医学部附属病院は、昭和20年に青森医学専門学校附属病院として設立されました。以来、75年余にわたり、

北東北医療圏の中心的中核病院として高度・高質医療の提供、医療従事者の教育・研修、それらを通じて地域貢献という役割を果たしています。平成18年より地域がん診療連携拠点病院に指定され、青森県内のがん医療の中核を担っています。平成20年にはがん化学療法室、緩和ケア診療室、がん放射線治療診療室、院内がん登録室、がん診療相談室（がん相談支援センター）の5部門が設置され、令和元年にはがんゲノム医療拠点病院に指定を受けたことから、がんゲノム医療室も新たに設置されました。

全国がん 登録室 紹介



弘前大学 医学部附属病院 院内がん登録室



院内がん登録室紹介

弘前大学医学部附属病院の院内がん登録室は、現在、室長（医師）1名、実務者2名（初級認定者1名、中級認定者1名）で年間2,000件を超える登録を行っています。本院は教育機関でもあるため、院内がん登録データを弘前大学医学部の実習や大学院生の研究でも使用していることが大きな特色です。

業務内容

① データ抽出

弘前大学医学部附属病院の電子カルテに記載されている診療情報と医事会計情報を蓄積しているデータベース（AppLink）を使用して症例の見つけ出しをしています。AppLinkには抽出機能があり、年5回のペースで、確定病名と疑い病名でがん登録の対象となるICD-10コードをもつ患者様を抽出しています。

② データ利活用促進のための取組

医学部や大学院での研究で利用していただいています。近年では2023 Joint ENCR-IACR Scientific Committee（グラナダ、スペイン）、日本がん登録協議会第33回学術集会（島根大会）にて、学生さん達が院内がん登録データを解析した結果を発表されました。その他にも院内での活用を進めてもらうべく、安定した精度の院内がん登録データを作成するために、月に一度の他部門の方々と合同で開催されるミーティングで、業務内容についてご報告しています。

青森県の西部に位置する弘前市は、津軽十萬石の城下町として約400年の歴史をもち、津軽地方の経済、文化、教育の中心都市として発展してきました。春には桜の名所である弘前公園の「さくらまつり」、夏には「ねぶたまつり」、秋には津軽地方のシンボルである岩木山で行われる「お山参詣（おやまんけい）」など、四季を通じた祭りで県内外から多くの観光客で賑わう観光都市です。「青森県＝りんご」のイメージがあると思いますが、実は青森県の中でも日本一のりんご生産量を誇るの、弘前市です。弘前にいらっしゃったときには、是非、弘前のりんごを味わってくださいね。

2025,01 aomori

